

日本被団協のノーベル平和賞の受賞を祝して

被爆 80 年を前に、2024 年のノーベル平和賞が、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）に授与されることが決定されました。世界で最初の被爆地・広島市に、教区本部を置くカトリック広島司教区として、今回の受賞を心から喜び、お祝い申し上げます。

1956 年に長崎で日本被団協が結成されてから今日に至るまで、被爆者の皆様が核兵器の非人道性を訴え、二度と同じ悲劇が起こらないよう草の根の活動を続けて来られたことに、改めて敬意を表します。その献身的な努力の結晶が、2017 年 7 月 7 日に国際条約として採択され、2021 年 1 月 22 日に発効した「核兵器禁止条約」（TPNW）です。

カトリック教会のヨハネ・パウロ二世教皇 が 1981 年 2 月 25 日に、また、フランシスコ教皇が 2019 年 11 月 24 日に、被爆地・広島市の平和記念公園を訪れて、世界平和と核兵器廃絶を強く訴えました。とくに二人の教皇の訪問とそのメッセージに励まされて平和活動に取り組む広島司教区は、被爆 75 年にあたる 2020 年 7 月 7 日に、長崎大司教区及び民間の 3 つの NPO 法人の代表者の方々と協力して、「核なき世界基金」（nuclear-free.net）を立ち上げました。それ以降、ささやかではありますが、日本被団協への支援を続けて来ました。今後もできる限りの支援を続けて行きたいと考えています。

また、2024 年 3 月 10 日に、国際パックス・クリスティの米国支部の有志の方々が、世界平和記念聖堂で、広島の被爆者 6 団体の方々と対話集会を開き、共同声明を発信した時に、広島司教区は、その仲介をする喜びを与えていただきました。

さらに、米国のサンタフェ大司教区、シアトル大司教区、長崎大司教区、広島司教区が母体となって、今年 2024 年 8 月 6 日に立ち上げた「核兵器のない世界のためのパートナーシップ」（pwnw.org）の構築に向けて、被爆 80 年にあたる 8 月に、広島の被爆者 6 団体の方々との対話集会を開催する準備をしています。

これまで、「核兵器のない世界」の実現に向けて、日本被団協の皆様とともに歩む機会が与えられたことを感謝し、今回のノーベル平和賞の受賞が、日本政府の「核兵器禁止条約」への署名批准、そして次の世代への平和活動の継承の大きな推進力となることを願っています。

これまでに亡くなられたすべての被爆者の永遠の安息を祈りつつ。

2024 年 10 月 22 日

聖ヨハネ・パウロ二世教皇の記念日

カトリック広島司教区

司教 アレキシオ 白浜 満